露草寮の緑化と環境

近藤　有紀[1)]・荒木　　光[1)]

Tree Planting for the Environs of Tsuyukusa Dormitory

Yuki KONDOU and Hikaru ARAKI

抄　録：40 年以上前に建てられた本学の露草寮は緑豊かである。しかし，その緑の手入れが余りなされていないために，不便を感じることもある。このような現状の露草寮の緑についての歴史をまず調べてみた。そして，現在の寮生がそのような状況についてどのように感じているかを，アンケートにとって調査した。その調査に基づいて露草寮の緑のあり方を考えてみた。それを具体化するために，寮の前庭の植生を設計してみた。また，露草寮の緑の豊かさを安定的に維持発展させていくための組織作りなどについて論述した。

キーワード：露草寮，緑化，庭づくり，森づくり

はじめに

京都のある集合住宅が本で紹介されていた。いまから 20 年前に完成したその集合住宅の住人は，人工的なものと自然なものが寄り添う共生型の都市づくりを目指したい，という共通の意識を持っていた。20 年前の写真を見ると，その周辺は緑もほとんど見られない，さながらコンクリート・ジャングルのような殺風景な様子であった。しかし住人達の努力によって 20 年後には, あふれる緑に虫が通い, 虫を求めて野鳥が来る森のような空間が集合住宅には広がっていた。身近な場所に緑があることで，安らぎや癒し，人と人との触れ合いや，子どもの遊び場の創出，また物理的な環境改善にもつながっていた。緑が人に与えてくれる計り知れない恩恵だった。

この本を読んで，この集合住宅の人々の考え方や行動力に共感し，自分もそのように緑を創出し，日々の暮らしの中で緑と関わりのある生活をしたいと考えた。しかし，いま身近な暮らしの中に，緑は溢れるほどあるにもかかわらず，ほとんどその緑と関わらないような生活している。いまの現状を踏まえて，身のまわりにある緑の現状と，そして，その緑ある生活が快適でよりよいものへと変化していくためにはどのように関わっていく必要があるかといったことに興味をもった。筆者が現在暮らしている京都教育大学露草寮をモデルとして，最終的には具体的な図案を展開できるように考察していきたい。

1）京都教育大学

Ⅰ．露草寮の歴史と現状

Ⅰ－1　緑化の意義

こころ豊かな生活の実現や緑あふれる安全で美しい都市環境の創出のためには，都市公園整備，貴重な緑地の保全や緑化の推進を総合的かつ計画的に進めることが重要である。地球温暖化対策やヒートアイランド対策，生物多様性の保全に資する緑地の整備・保全，緑化などは緊要な課題とされている。反面，高地価で用地に限りある都市部では，財政難もあり用地買収の伴う都市公園整備による緑化推進は現実不可能に近く，大きくは望めない。このため，公共施設だけでなく民有地の緑化も重要であり，公園緑化事業と併せて，道路や河川，建物への特殊緑化（屋上緑化）などの一層の推進が必要である。

本学の露草寮は，樹木が覆い茂った緑豊かな環境の中にある。しかしながら，現在は，覆い茂ったためのマイナス面が際立ってしまい，緑化のメリットを享受できていることがあまり感じられていない。せっかくの緑豊かな環境もメリットをじっくり味わうことができるようになるために，露草寮の緑化について考えてみたい。

Ⅰ－2　京都教育大学学生寮の歴史

本学の学生寮は，明治 32 年（1899 年）に現在の附属京都中学校付近（京都市北区小山南大野町）に建てられた京都府師範学校寄宿舎「紫光寮」が母胎となっている。当時は，学生全員が入寮する全寮制で, 品性修養の場所として師範学校の教育が生活全般を通して行われていた。さかのぼること百有余年，その歴史は古く，現在では春の新入生歓迎行事や秋の寮祭等伝統的な行事が毎年自主的に催されている。

現在の建物は, 男子寮の深草寮は昭和 41 年（1966 年）, 女子寮の露草寮は昭和 39 年（1964 年）に建てられたものであり, 建物自体は古いが新新寮にはない趣と経験ができる集団生活がある。何より寮生活を通じて得られた先輩や同輩との人間関係は深く，勉学や生活上の悩みを解決する糸口となることも多い。

このように本学の学生寮には，一般のアパート生活では得にくい魅力があり，個人化する生活の中で失われつつあるものが残っている。学生寮は，社会性と共に自主独立の精神が育まれる場所として，今日ますます期待されている。

Ⅰ－3　京都教育大学露草寮の寮内環境

露草寮では，建築から 40 年以上たったいまも相部屋制度を用いている。この古き良き伝統によって，現在住んでいる寮生にも寮生同士の交流の場として親しまれている。しかし，また 40 年前から変わらないという点では，冷房の不備や多くの設備の老朽化によって，また生活環境の変化に伴い，今日在寮している学生にとって，生活に支障が出たり，不便に感じたりすることもある。寮で生活するにあたって改善する箇所は多々見受けられるが，寮にいる学生の 1 番の悩みは，夏の室内の暑さである。冷房の不備を改善するとなると寮全体の建て替えに発展するため，金銭面などの点から実現させることは困難である。その上，冷房がないので，換

気のため部屋の窓をあけようとすると，整備のされていない蔦が窓にからまって窓をあけることさえ出来ず，窓をあけることが出来たとしても破れた網戸や窓枠の隙間から，頻繁にムカデや, 時には蝉が侵入することも珍しくない。このような理由から窓を閉め切った状態の室内で，扇風機とうちわによって夏を乗り越えるしかない，というのが露草寮の夏の現状である。

しかし，これらの悩みは，寮の庭の整備をすることによって窓の開閉を通常通り行うことを可能にし，ムカデの発生を抑え，また樹木や蔦の上手な利用によって室温の上昇抑制などの改善によって，今の寮生活を，より快適な暮らしになることは不可能ではない。

Ⅰ－４　露草寮の自然環境の過去から現在
～田渕先生・柳田調理師のお話しに基づき～

露草寮は昭和 39 年に建設されたが，かつての露草寮の自然はどのような状態にあったのであろうか。40 年以上前まで遡って調査することは出来なかった。しかし，20 年以上前から，京都教育大学の学生寮の調理師として働かれている柳田調理師に，ここ 20 年間の寮の緑化の状態について聞き，また，園芸部の顧問として寮に携わっていただいた経験もあり，樹木にも精通されておられる京都教育大学名誉教授田渕春三先生に，露草寮の緑化の状態についての専門的な話を聞いた。これらの聞き取り調査をもとに，露草寮の緑化の状態の変遷について簡単にまとめる。

Ⅰ－４－ｉ　露草寮の自然環境　～過去～

聞き取り調査にあたり最も知りたかったのは，寮の自然状態は，昔から今のように整備されていなかったのかどうかという点である。そして，もしも過去と現在に違いがあるなら，そのようになった経緯とその要因などについて明らかにしたい。

かつての寮は今より整備が行き届いていたようである。かつては調理師さんが今よりも多かった。人数に余裕があったので，空いた時間を利用して庭の整備にあたることが可能であったという。時間を見つけては，余分な枝の伐採や蔦の整備，雑草の手入れもできた。そして柳田調理師が赴任された当時，植物に大変興味もっていた調理師が，食堂付近の中庭にウメ，モモ，アンズ，ミカン，カキ，さつまいも，豆など実のなるたくさんの樹木や植物を植えた。寮食に中庭で育てた食材を使用することもあった。秋には寮で焼き芋をしながら，寮生と調理師さんの交流が毎年の行事として行われていたという。

約 15 年前までは，女性の調理師さんのほかに男性のボイラー技師が，毎晩ボイラーを沸かすために常勤していた。ボイラー技師は調理師と同様，日中の空いた時間に寮の整備や，力仕事である太い幹などの伐採もおこなっていた。しかし，ボイラー技師の定年退職後の不補充や近年の大学の法人化に伴う経費削減で調理師の人員も削減された。それらの要因で庭の整備に充てる時間の余裕はなくなり，寮の木々や植物は一層放置されることとなった。

また昔は，寮生の中でも寮の緑に対する活動があった。約 20 年前の当時，寮生に園芸部所属の方がいて，寮の玄関の整備を園芸部の活動の一環で行っていた。そのときに現在の玄関の花壇が作られたようである。

Ⅰ－４－ⅱ　露草寮の自然環境　～現在～

特に近年は，整備されなくなった蔦や木の荒れ方が目立つ。ここ最近は，年に 1 度ほど，業者に伐採してもらう以外は，木を伐採する機会はない。そのため地下茎や鳥などが木の実を落とすことによって生えた木が数を増やしている。特にニセアカシア，センダンなどが地下茎から生えてきており，成長もはやいため急激に勢力を伸ばしている。かつてはこれらの植物は一切なかった。またテニスコート側のイチョウの木も鳥によって増え，非常に大きくなっている。

今回，寮の庭を散策して初めて気がついたのだが，東側の塀沿いにある桜の大半が枯れていたことである。ここ 2，3 年で業者によって伐採されたときの切り口の後処理がうまく出来なかったのではないか，と推測された。しかし学生課に聞いても何もわからず，真の原因は不明だった。結局，大半の人に気にされることもなく，未だ放置された状態である。また整備不良のためカキ等の木が，他の木によって枯れているのも多々見受けられた。

Ⅰ－４－ⅲ　自然環境の変遷について考察

自然環境の変遷の要因は何か。人々の意識，また寮の緑に対する興味や意識が薄くなったことがまずあげられる。そして緑に目をやる余裕がなくなったこともある。かつては多くの調理師や，ボイラー技師，また露草寮の寮生が積極的に寮の緑の管理や交流や利用を行っていたが，いまではほとんど行なわれていない。色々な要因がある中で，大学の法人化に伴い寮への経費削減も大きい。無駄の削減を追求した結果，寮に携わる人員が減り，調理師の余裕もなくなり，寮の緑を見守る人々は年々減少した。年に 1 度，寮の木々を伐採する業者は，枝を切った桜がその後，無事に育っているか枯れているかは気にも留めない。寮の樹木が荒れ放題になればなるほど，手のほどこしようがなく，寮生も入寮した日から，寮の緑は魅力のないものとして認識する。窓を開ければ必ずムカデが部屋に入るような寮の庭に立ち入るには，何かきっかけがないと困難である。

これから，寮を変革するにはまず何をするべきか。大学の経費削減による切り詰めた人員の増員を訴えるのもひとつの手である。しかしかなり厳しい現状である。もうひとつの案として寮生が寮の緑や庭に何か興味をもつような活動をつくることが考えられる。何らかの動機付けがあれば，今まで寮生が敬遠した庭に出入りするようになり，それによって寮の緑に目を向けるのではないだろうか。

Ⅱ．露草寮でのアンケート

Ⅱ－１　目的と概要

2007 年 10 月に京都教育大学露草寮に住んでいる寮生を対象とし，寮の自然環境に対する意識，認識を知るためアンケート調査を行った。寮の緑や，自然環境に対する認識と，今後どのように接していきたいかについて寮生の意見を聞く。

予備調査として，「寮での緑，自然があることの利点」，「寮での緑，自然があることの欠点」また「今後，寮の自然をどのように整備・変化させたいか」といった希望を問う 3 項目の質問

を行い，自由記述による調査を実施した。それを踏まえて改めて本調査を行った。予備調査の回答で多かった意見を絞り，10 項目について，当てはまるものにはチェックを入れるように求めた。

追加項目として，「寮に植生していると認識できている木や植物の名称をできるだけあげてください」，「いま寮に植生しているものも含めて寮にこのような木・植物がほしいという希望があればあげてください」，「もし寮に冷暖房のエアコンが導入されるとします。導入されるなら今の寮費に何円までなら加算されても導入に賛成できますか？払うことのできる 1 番高い料金に 1 つだけチェックをお願いします。（機械代金，設置代金，電気代金すべて含めて 5 千円以上かかるとします）」の 3 点を追加した。以上，合計 6 項目の質問に対し，露草寮生全体 63 名中 55 名より有効回答を得ることが出来た。また，Q6 を除いて，複数回答を可とした。（以下のアンケートに関する表の人数は回答実人数，％は 55 人に対する百分率である）

Ⅱ－２　結果・考察

【表 1】Q1　寮での緑，自然があることの利点をお聞かせください

№.	内　　容	人数（人）	%
1	四季を感じる	35	63.6
2	外から見えにくい点が良い	29	52.7
3	癒されていると感じる	26	47.3
4	空気が良いと感じる	24	43.6
5	目の保養になる	21	38.2
6	涼しく感じる	20	36.4
7	果実をおいしく食べられる。食べたことがある	14	25.5
8	その他	1	1.8

寮に緑があることによる利点について，予備調査で多いものから順に上記の 7 項目に絞って質問した。結果は上記の通りである。1 位は「四季を感じる」点である。アンケート調査を行った時期とほぼ同時期に，玄関のキンモクセイの香りやイロハモミジの色づきがピークだったことが票を集めた要因のひとつかもしれない。やはり四季を 1 番感じさせてくれるのは，四季折々に違った表情を見せてくれる身近な緑や自然によるところ大きいだろう。

2 位は「外から見えにくい点がよい」である。3 Ｂ棟と 4 Ｂ棟の各部屋の窓がある南側は，附属高校のテニスコートと隣接している。その間に高木であるカイヅカイブキ等が茂っているため，テニスコートや近隣からの視線を遮断する役目を果たしている。

また一方で「外から見えにくい点がよい」は，逆に侵入者が隠れやすいので欠点なのでは？という意見も 1 票入っていた。考えようによっては，高木であるがゆえに寮への外界からの視線を遮断されることで，不審者には好都合である。寮への不審者は毎年，後を絶たない。この南側に配置する樹木選びによっては，不審者を減少させることができるかもしれない。

【表 2】Q2　寮での緑，自然があることの欠点をお聞かせください

No.	内　　容	人数（人）	%
1	全般的に虫が多い	49	89.1
2	草刈りが大変	44	80.0
3	ムカデの被害にあう	39	70.9
4	蝉が騒音になる	28	50.9
5	ツタ等の植物が生えることによって洗濯物が干しにくい	18	32.7
6	その他	4	7.3

寮に緑があることによる欠点は，予備調査でも意見がまとまっていて，ほとんどの寮生が思うところは同じようで 6 項目と少ない。ムカデなどの害虫による被害，蝉などの騒音，そして蔦がからまって，夏季には中庭のもの干し竿がつかえなくなることなどである。またそれらの蔦を含め，雑草の草刈がとても重労働なことに寮生の不満はある。寮生の不満を解消するために，寮を整備して害虫などを減らすことは現実的に可能である。しかし，草刈は昔から寮に住んでいる寮生の責務であるから重労働でも続けるべき行事だが，日常の定期的な整備によって一度に刈る負担は少なくなるであろう。

【表 3】Q3　今後，寮での緑，自然がこのように整備・変化したらいいのに，と希望があればお聞かせください

No.	内　　容	人数（人）	%
1	花や花のなる木を増やしたい	26	47.3
2	無造作ではなく計画的に環境を考えて緑を育てたい	26	47.3
3	ウメ，アンズ，ミカン，モモ，ビワ，ザクロ刈りの日を作って収穫したい	21	38.2
4	果実のなる木を増やしたい	17	30.9
5	もう少し緑の全体量を減らしたい	13	23.6
6	もっと定期的に草刈りをしたい	9	16.4
7	今のままでよい	5	9.1
8	その他	2	3.6
9	特に希望なし	2	3.6
10	緑，自然は必要ない	0	0.0

アンケートの結果によると，最多の 26 票同士で票を分けたのが，「花や花のなる木を増やしたい」，「無造作ではなく計画的に環境を考えて緑を育てたい」といった意見である。緑や自然が必要ないといった意見や特に希望はないと回答した人は少ないが，いまの寮の自然状態に不満があり，変化をもとめ，また視覚的に癒しを求めているようである。緑を育てたいという意見に賛同していることから，これから寮の緑，自然環境を変革するための活動を提案すれば協力が得られると思われる。

「ウメ，アンズ，ミカン，モモ，ビワ，ザクロ刈りの日を作って収穫したい」「果実のなる木

を増やしたい」という項目も上位に入っている。このことから，果実のある樹木に興味のある寮生が多く，この気持ちを活用することで庭の利用や関心につながるのではないだろうか。また「その他」の意見のひとつに,「庭とか屋外で憩える場所があったらいい, 飲めたり出来るテーブルなど」といった提案があった。現実的に可能の範囲内である。このような寮生の提案を出来る限り実現すれば寮の庭が，寮生にとって憩える場所になるであろう。

【表 4】Q4　寮に植生していると認識できている木や植物の名前をかいてください

№.	内　　容	人数（人）	%
1	キンモクセイ	24	43.6
2	ウメ	21	38.2
3	サクラ	21	38.2
4	ビワ	17	30.9
5	イチョウ	16	29.1
6	アンズ	14	25.5
7	モミジ	10	18.2
8	ザクロ	10	18.2
9	モモ	7	12.7
10	ツユクサ	7	12.7
11	スモモ	3	5.5
12	タンポポ	3	5.5
13	カエデ	3	5.5
14	カキ	3	5.5
15	分からない	4	7.3
16	無回答	2	3.6

寮生 55 名の回答によると，約 40 種の木や植物の名称が挙げられた。しかし名称が間違っているもの，寮に存在していない植物を挙げる人もあった。また要望などの欄にもっと木や植物の名前がわかるようにしてほしい，また詳しく知りたいといった意見もあった。寮生は，寮の緑や自然環境に興味のないように思われたが，寮の木や植物について知りたいという気持ちがあっても機会に恵まれなかったのかもしれない。上の表は，3 票以上あったものを多いものから順にまとめたものである。

これによって，ほとんどの寮生が寮に植生している木や植物の名前をわかってない，ということが判明した。認識しやすいものとして秋に強い香りをはなつキンモクセイであったり，ウメやサクラは春によく目に付き，またビワなどの果実は食べる機会があって認識されているのかもしれない。またひとつもわからないという人がおり，これは全く寮の緑，樹木に興味がない事実の現れであると思われる。

【表 5】Q5　いま寮に植生しているものも含めて，寮にこのような木・植物がほしいという希望があれば挙げてください

No.	内　　容	人数（人）	%
1	サクラ	10	18.2
2	モミジ	7	12.7
3	ヒマワリ	4	7.3
4	イチョウ	4	7.3
5	ミカン	4	7.3
6	リンゴ	2	3.6
7	キンモクセイ	2	3.6
8	バラ	2	3.6
9	イチジク	2	3.6
10	カキ	2	3.6
11	今のままでよい	2	3.6
12	何か実のなる木	2	3.6
13	木より花がほしい	2	3.6
14	特になし	6	10.9
15	無回答	11	20.0

キンモクセイなど見た目が華やかなものや匂いに特徴があるものに票があつまった。寮にはキンモクセイ，ギンモクセイの両方があるが，一般的な知名度の高いキンモクセイの方が人気のようである。またもっと花を増やしてほしいという意見が多くあり，表には入らなかった少数意見の中には，ユリ，チューリップ，ツツジなどがあった。

そして，「特になし」や無回答とする人が目立った。これは現状に不満がない人や，寮の木や植物に対して興味がないといった人が多いことを示すものである。

【表 6】Q6　もし寮に冷暖房のエアコンが導入されたとします。導入されるなら今の寮費に何円までなら加算されても導入に賛成できますか。

払うことのできる一番高い料金に一つだけチェックをお願いします。

（機械代金，設置代金，電気代すべて含めて 5 千円以上かかるとします。）

（ちなみにこの最低金額は，一般的な 12 畳用の冷暖房エアコンの代金を，1 部屋に 1 台設置し 2 人で 4 年間かけて全額し払っていくものとして計算したものです）

No.	内　　容	人数（人）	%
1	冷暖房エアコンの必要性を感じない	10	18.2
2	冷暖房エアコンの必要性は感じるが，今より寮費が上がるなら導入しないほうが良い	21	38.2
3	寮費プラス 5 千円なら導入に賛成	23	41.8
4	寮費プラス 1 万円以下なら導入に賛成	1	1.8

このアンケートによると，上回生ほど長年住み慣れたためか扇風機だけで過ごすことに抵抗がない人も約 20％いるが，約 40％はお金を払うなら冷暖房の設置を控えるとし，また寮費に加算しても良いとする人も最低金額での見積もりの 5 千円までの人で 40％を超えた。もともと快適な 1 人暮らしより，多少不便でも金銭的に安い寮に住むといった人が寮生の大半であるため，この結果は妥当であろう。

また現実的に今の本学や寮の現状では，冷暖房エアコンの導入は難しい。また 3 部屋合同でのブレーカーは容量が少なく，冬場にドライヤーを使うと度々ブレーカーが落ちるほどであるため，冷暖房エアコンを導入することは設備の面でも難しいのが現状である。こうした場合，いかにこの寮で冷房のエアコンなしに夏場を快適に過ごすか，ということを考えたほうがよい。

そう考えたときに活用すべきは，すでに存在するものをうまく利用することである。そこで利用できるのが壁面緑化である。露草寮には夏になるとびっしりと蔦が生えそろい，蔦は 2 階に到達するほどになる。しかし，蔦はムカデなどの発生の抑止として，年に 3 回ある草刈りの対象になる。確かにムカデの発生はすごく，寮生の大半が被害をうけ，1 日窓を開けておくとその日は部屋に 10 匹以上ムカデが出ることもよくあるため，蔦がある夏場は部屋の窓を開けられないという状態にある。

しかし，ムカデの発生原因は，植物の手入れを怠っていることにある。例え蔦があろうとなかろうと，手入れのされている庭にはムカデは発生しない。庭や蔦をきちんと整備することによって，部屋の室温の上昇を抑制したり，また部屋の窓もムカデを恐れることなく開けたりすることができる。

壁面緑化を施行する段階になってよく不安視されるのが，蔦によって壁面や躯体を傷めたり，悪影響を与えたりしないのかという点である。建物を傷める原因としては，壁面に付着したつる植物の壁面内部への侵入が考えられる。さまざまなつる植物のなかで，巻きひげ，巻きつる，巻き葉柄，這性型つる植物はこういった問題を引き起こさない。おもには，オオイタビ，ヘデラ類，ノウゼンカズラなどに代表される気根タイプ（空気中に根を出すもの）の付着根を有するつる植物を壁面に繁殖させた場合，気根がコンクリート躯体内部に侵入して損傷を与えることが考えられる。そして毎年寮で繁殖しているのはナツヅタであるため，この点は心配ないとされる。

今の，荒れて放置されたままの壁面のナツヅタを整備することによって，寮の自然環境や見栄えだけでなく，寮内環境も快適になる。

アンケートの結果を一言でまとめるなら，緑化のメリットもデメリットも分かってはいるということであるが，いまひとつ身近な関心事にはなっていない点である。デメリットを減らし，メリットを増やすために，自分の労力や金銭負担を増やすことはしたくないという気持ちがにじみ出ているといえる。

Ⅲ．露草寮の緑化具体案

Ⅲ－１　緑化具体案の構想

今まで調べてきた資料を踏まえ，露草寮の緑化具体案を作成する。寮全体の緑化案を作成す

る前に，玄関についての緑化具体案について検討する。

Ⅲ－１―ｉ　アンケートからみた具体案

露草寮の玄関の緑化具体案では，アンケートからわかった寮生の意見や希望の中で人数が多く実現可能なものを具体案にとりいれることとした。

あまり寮生には認知されていないことがアンケートで確認されたが，すでに寮には，ウメ，アンズ，ミカン，モモ，ビワ，ザクロなど，たくさんの果木がある。しかし多くの果木は，ボイラー室の裏やあまり人通りのない場所にあるため，認知されていない。ここで果木として，玄関にバランスも考えた上で，新たにカリン，ヤマモモ，ミカンを取り入れる。視覚的にもわかりやすいので，今まで寮の緑や自然に興味がなかった人も，樹木に興味を持つだろう。また果実をすぐ採ることが出来る。今まではひっそりと目立たない場所になった果実を，気づいた人が食べる程度であったが，これを機に寮の他の場所にある果木に足を運ぶ良いきっかけとなるかもしれない。また玄関付近で果実を目にすることによって，果実の収穫を忘れるということもなくなり，アンケートでの希望も多かった果実の収穫が実行しやすくなり，より一層寮生同士の交流も深まる。

また今後どのように寮を変えたいかというアンケートでは「花や花のなる木を育てたい」という意見が多かったため，これも積極的に取り入れた。

寮生アンケートの「寮に緑があることの利点」では，最も多い意見である「四季を感じることが出来る」から，寮生は視覚または嗅覚などの面より四季を感じ，それを利点ととらえている。今，寮にある植物で四季を感じられるものは，春の花ソメイヨシノ，秋のキンモクセイ，秋の終わりから冬にかけてのイロハモミジが代表的であろう。そこに，途切れることなく四季折々に花や実がなったら，寮に彩がさらに増し，景観はよくなる。また，現在あるイロハモミジがある付近に，紅葉がきれいなツツジやカリンを固めて配置した。また寮にはどんぐりのような秋を代表する木の実がなく，第一寮棟北側の空きのスペースに新しく配置した。先ほどの「花や花のなる木を育てたい」での意見とも併せて，新しく玄関の緑化具体案として導入を考慮した樹木が【表 7】の太字の樹木である。

【表 7】玄関の緑化具体案として導入を考慮した樹木

春の花	ソメイヨシノ，**ハナミズキ**，ツツジ，**ドウダンツツジ**，**ジンチョウゲ**，**カリン**，**ヤマモモ**
梅雨の花	**アジサイ**，タイサンボク
梅雨の実	**ヤマモモ**
夏の花	モッコク
秋の花	キンモクセイ
秋の実	モッコク，**ウバメガシ**，スダジイ，**クヌギ**
冬の花	**ヤブツバキ**
冬の実	**ミカン**，クロガネモチ，**カリン**

（**太字**は新しく植える予定の樹木）

Ⅲ－１－ⅱ　住環境への考慮

新しく玄関の緑化具体案で樹木の配置を考えるに当たって，住環境への良い影響をもたらすものにしたい。玄関の広場に面する露草寮管理棟の南側には落葉高木樹を植える。夏には南からの太陽の直射日光を高木が遮って影を作り，部屋に木影と涼しさを与え，また冬には高木は落葉し，寒い部屋に日差しを与えてくれるのである。以上の点などを考慮して玄関付近に植える樹木の候補を，区分別に表わしたものが表 8 である。

【表 8】

区分	露草寮　緑化具体案における玄関付近の樹木
常緑低木	**ジンチョウゲ，ミカン**
常緑・落葉低木	ツツジ
常緑小高木	モクセイ，**ウバメガシ**
常緑中高木	モッコク
常緑高木	タイサンボク，ゲッケイジュ，クロガネモチ，ツガ，**ヤマモモ**，モチノキ，**スダジイ**，**ヤブツバキ**
落葉低木	**ドウダンツツジ，アジサイ**
落葉小高木	イロハモミジ
落葉高木	**カリン**，ハナミズキ，**トチノキ**，**クヌギ**，ソメイヨシノ

（**太字**は緑化具体案では新しく植える予定の樹木）

Ⅲ－１－ⅲ　予算の考慮

特に最近は，寮の予算が少なくなっており，さらにアンケートでもわかるように，寮生は金銭出費を控えたい傾向が強い。したがって，この具体案を実現させるために，なるべく低価格で済むように，新しく緑化具体案に取り入れた樹木は，本学の附属環境教育実践センターに協力を依頼し，挿し木や安く買った苗木によって取り入れるようにする。環境教育実践センターには 200 種類以上の樹木と草花がある。

（**【表 9】**の太字の樹木は，環境教育実践センターまたは本学学内で入手できる樹木である）

【表 9】

新しく植える予定の樹木名（店頭における苗木・成木の一般価格）	植え付け時期・繁殖方法など
ツツジ（￥1000 ～ 4000）	植え付けは 1 年中可能，梅雨が適期
カリン（￥700）	植え付けは 12 月～ 3 月　移植は 2 月～ 3 月
トチノキ（￥1,000）	植え付けは 12 月～ 3 月　※乾燥，陽射しに弱いため強い西日のあたらない場所にうえる
クヌギ（不明）	植え付けは 10 月～入梅まで
ミカン（￥1,500）	繁殖は接ぎ木で、台木はカラタチを使用

ヤマモモ（￥3,000）	植付けは梅雨前か秋・実生により増殖
ツバキ（￥800 ～￥4,000）	植え付けは 3 月～ 4 月，梅雨，適期 9 月
ジンチョウゲ（￥500）	植え付けは 3 月～ 4 月，適期 9 月　※十分な根回しが必要
ハナミズキ（￥1,500）	植え付けは 12 月～ 3 月上旬
ウバメガシ（不明）	植え付けは 10 月～入梅まで
アジサイ（￥600）	植え付けは 11 月～ 3 月

Ⅲ－２　緑化具体案の玄関図案

現在，露草寮玄関付近に植えられている樹木は次の通りである。

【表 10】

区分	2007 年 12 月現在　露草寮，玄関付近にある樹木
常緑・落葉低木	ツツジ
常緑小高木	モクセイ，**カイヅカイブキ**，カナメモチ
常緑中高木	モッコク
常緑高木	タイサンボク，ゲッケイジュ，クロガネモチ，モチノキ，ツガ，**シュロ**
落葉小高木	イロハモミジ
落葉高木	**センダン**，**ニセアカシア**，**メタセコイア**，ソメイヨシノ

（**太字**は緑化具体案では伐採予定の樹木）

アンケートで明らかになった寮生の希望をできるだけ取り入れ，寮の住環境も十分に配慮し，金銭的にも低負担に心がけた結果，今回作成した露草寮玄関付近の緑化具体案による樹木は表 8 の通りである。

これらの樹木は，アンケートで希望の多かったことを最大限考慮して選定した。四季を感じることや果木や涼しさを感じることなどである。明るさ涼しさ寒さ対策といった良質な住空間を意識し，且つ安価にできるものを選んでみた。これらを常緑，落葉，高木，低木を適切に組み合わせて植樹する。今回提案する場所は玄関周りだけであるが，最も寮生の目に付きやすい場所であるから，この変化が，寮全体の緑に関心を持つ大きな契機になると考えられる。

Ⅳ．実現させるための課題

Ⅳ－１　経費面

お金を出すぐらいであれば，蒸し暑い京都での夏の生活を，今まで通り扇風機だけで過ごすと言う寮生が多いことは，アンケートでも明らかである。とにかく，できる限り安くしなければならないということになる。附属環境教育実践センターの理解と協力が得られれば，樹木を新しく植えて増やすことに，費用はさほどかからないと考えられる。しかし，今まで植えられ

ていた樹木を伐採・処理する際の費用が非常にかかる。参考として，年に 1 回程度業者によって行われている露草寮の樹木の剪定・伐採・枝払いなどにかかる費用は，平成 18 年度で 199,100 円，平成 19 年度で 220,500 円かかっている。また，寮生が年 2 回行っている草刈とは別に業者による草刈があり，その費用が 1 回 178,000 円である。また，ムカデの駆除費用が別に 63,000 円である。あまり整備されていないように見えた今までの露草寮も，既にこれだけの費用をかけているのである。

以上の費用を参考に，緑化具体案を実行するための前提の樹木の伐採にかかる費用を 20 万円と考えてみる。学生課から費用の援助が一切出なかったとする。それを現在の寮生 63 名で負担すると年間 3,174 円であり，1 ヶ月約 260 円となる。

月々 5,000 円以上冷暖房への費用を出すのは難しいとしても，これだと月々 260 円である。ある程度金額が増したとしても, もっとも費用がかかるのは樹木の伐採などの費用であり, 月々 500 円もかからないことが予想される。この程度の出費で，いまより寮の暮らしが少しでも快適になるのであれば，寮生は協力してくれるのではないだろうか。

Ⅳ－２　維持管理のための組織作り

経費の問題がある程度解決できたとしても，緑化の具体案が実現した後の維持管理のための組織作りが重要になってくる。田渕先生のご提言を柱として，維持管理のための組織作りを検討する。

寮の古くからの伝統である新歓の行事の一環として，植物の種植えを新入寮生が行い，各自の持ち場や苗をもつことで愛着をわかせ，それが大学に入学した記念樹ともなる。そして 4 年後の卒寮式に成長した苗木を文化･スポーツ係の指揮の下，計画された場所に植樹してもらう。このサイクルを毎年繰り返していけば, 全寮生に密着した緑化が可能になるのではなかろうか。

時期が違う種植え挿し木は，3 ヶ月に 1 回の大掃除に担当のブロックが責任をもつ。手入れを保持するために，毎日の水遣りは当番が行う。また月に 1 回ある寮内清掃活動の 30 分の時間を使って，植樹した周りの草抜きをする。寮内清掃の時間が定着しているように，同じ意識で寮内の緑や自然環境に対する整備も定着させる。自分が蒔いた種から出てきた苗だという意識やあの先輩が植えた樹だといった愛着が支えになって，安定した緑化が進められると考えられる。

Ⅳ－３　安定的な維持継続のために

露草寮の緑化具体案を実行に移すために，金銭的な問題や組織を定着させることは重要課題である。しかしこの調査と考察を経て感じたことは，寮の緑や自然環境に対する意識改革をまずすべきではないかということである。

今回露草寮を詳しく調査するまで，隅々まで寮の庭を見たことがなく，漠然と寮の自然環境は荒れていると感じてる程度であった。害虫などのため，なるべく近づきたくない場所であった。そのような現実であるから，アンケートで樹木の名前を全く知らない人々がいることも当然のことかもしれない。しかし，実際に寮の庭を歩いてみると様々な発見をした。寮の庭に果実のなる樹木が多く存在していること，桜の木が枯れてしまっていること。外来種の樹木が勢

力をのばしていること。寮内にある樹木の品種が少ないこと，蔦も紅葉をすることなど等である。

在寮 4 年目にして，寮の緑や自然に初めて真正面から向き合い，それをきっかけに寮の緑に対する新しい構想作りや樹木に対してさらに知りたいという欲求がわいた。身近にある寮の緑の魅力を発見した。早期に寮の緑に対して向き合っていれば，この 4 年間，窓やカーテンさえも開けずに過ごすこともなく，いまより快適な寮生活が送れたかもしれない。

卒論調査として寮生に対してアンケート調査を行なったことによって，筆者のように初めて果実の存在を認識したり，学名を知って興味を持った人がいた。興味を持つことによって，ほんの些細なことでも寮の環境改善につながるかもしれない。今回，寮の緑化具体案として玄関を題材にしたが，それは多くの可能性の中のひとつに過ぎない。理想としては冒頭に書いた集合住宅のように住民全員の協力と意識によって身近な緑とどのように共生していくかを考え，皆で実行していくことである。ただ用意された緑をあたえられるだけではなく，そこに住む寮生が自分達に合った緑を創造し育て，ともに共生していくことが重要である。

むすび

緑が素晴らしいことが分からないわけはない。その緑が周りにいっぱいある。それにも関わらず，その緑に何の関心も示さない。その存在から得られるメリットを，理解し感謝することもない。それどころか，そのデメリットばかりが気になり，何とかならないかと常々考えている。自然に触れ，自然に親しむことは，素晴らしいことのはずである。それでも，自然のなかに積極的に身を置くことをしようとはしない。何故だろうか。

人類の文明・文化の歴史は，自然からの脱出の歴史である。自然の影響が安定的に少ないほど，文化的な生活をしていると考えられている。言い換えれば，本質的に，人類は自然が嫌いである。京町屋の坪庭に水を打ち自然の風を作って涼を得るよりも，エアコンの効いた部屋に入ったほうが気持良いと感じる人の方が圧倒的に多い。寮の周りの緑を整備することよりも，自分の出費がないなら，寮を建て直して，完全エアコンの効いたものにするほうが良いと考えている人のほうが，おそらく圧倒的に多い。環境問題がこれほど叫ばれている，今日においてでもである。

自然に良く似た言葉に，天然という言葉がある。それぞれ様々な解釈ができるが，一つの解釈として,「天然には人との関わりが無く, 自然には人との関わりが有る」ということができる。人類が，猿をはじめとするいろいろな獣・動物同様に，天然のあるがままの果実を食すること等で生き続ける間は，天然があっても自然はないと考える。人類が天然に手を加えて生きることで，自然が出来上がったのである。天然状態はそれなりに完全循環型であったといえる。人類が生き続けるためには，自然も完全に循環型でないと絶対に駄目である。人類は，完全に循環型である状態の自然のなかに身を置いてきたのである。

人類が天然に関わることで自然ができたが，それでも循環型が維持されていたことは，人類が自然に関わることを止めれば，循環型が維持できないということがあり得るということである。循環型として安定している状態で自然に関わってきた人類は，その関わり方を止めてはな

らないということなのである。止めれば循環型が維持できなることがあり得るからである。

人類は自然が嫌いである。したがって，本質的にはできるだけ自然と関わりたくないと思っている。しかし，自然に人類が関わっていないと循環型は維持できない。人類はいやでも積極的に意識して自然と関わっていかなくてはならない。自然を愛するということは，そういう意味もあるのである。つまり，寮の緑を改善する場合，寮生が，積極的に変革への意識を持たなくてはうまくいかない。緑をはじめとする自然は素晴らしいとわかっている。しかし，労力奉仕はしたくないし，お金も出したくない。これは大きな問題である。しかし，どうすれば解決できるかといえば，問題が大きすぎて根本的な答えは出ない。

横浜国立大学の宮崎昭先生のように天然状態の森を作ろうと主張する人がいる。人類が手を加えないで，森作りをしようということになる。いくつかの条件があるが，街中でもそのような森作りは可能である。これについて深く論じることは本稿の狙いではない。いろいろな条件の一つは，その土地の気候風土にあった樹木を植えるということである。つまり，そこに住んでいる人間に都合の良い樹木だけを植えるということでは天然状態の森を作ることは難しいということになる。

労力も出したくないし，お金も出したくないのであれば，天然状態の森を作ればよい，ということになる。その場合は，そこの人間に都合の良い樹木ということを諦めなければならない。その方法も，寮の緑化の具体策の 1 案とすることも可能であるし，そのほうが安定的な緑化になるともいえる。この件については，いつか，稿を改めて考えてみたい。

あとがき

最後に，いくつかお断りをしておきたい。本稿の前半部分は，緑化の意義，都市の緑化，壁面緑化，屋上緑化について詳しく論じていたが，紙面の関係で削除した。また，露草寮の玄関周辺の緑化については，詳しい設計図を作成していたのであるが，原版を紛失してしまったので，本稿に載せられなかった。誠に申し訳ないです。また，本稿を書くに当たり，柳田さんならびに田渕先生には多くの時間を割いていただくなど，多大のご迷惑をおかけいたしました。とりわけ，田渕先生におかれましては，貴重な時間を大きく割いてくださり，露草寮までわざわざおいでくださり，詳しく庭を見てくださり，丁寧な解説をしてくださいました。また，貴重な参考文献をお貸しくださり，同時に寮の緑化についての貴重なご意見を賜りました。深く深く感謝申し上げますと同時に，ご理解ご協力に十分にお応えできるような内容にならなかったことを，心より深くお詫び申し上げます。

【参考文献】

村越　匡芳「庭に植えたい樹木図鑑」2006 年　池田書店

吉田　徳治「校庭緑化」1961 年　農業図書

田渕　春三監修「緑と学校」1978 年　京都府教育委員会

延藤　安弘「おもろい町人」2006 年　太郎次郎社エディタス

京都教育大学　附属環境実践センター「植物目録　木本の部」2007 年

都市緑化技術開発機構特殊緑化共同研究会／編「知っておきたい壁面緑化の Q & A」2006 年　鹿島出版会

【参考 URL】

「屋上・壁面緑化空間は近年どの程度創出されているか」
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/04/040704_.html　国土交通省